【SRA Holdings】Special Mail (No. 262) 2026 年 11 月

(株)SRA ホールディングス 代表取締役社長の大熊です。

本日、2027 年 3 月期第 2 四半期決算を発表しました。併せて、「決算付属資料」、「2026 年 10 月次売上高速報」も発表しました。今回の発表の要点は以下の通りです。詳細は発表資料をご覧ください。

＜発表資料＞ https://www.sra-hd.co.jp/

〔2027 年 3 月期 第 2 四半期業績(連結)前年同期比〕
■売上高=減収
■収益＝「売上総利益」「営業利益」「経常利益」「四半期純利益」とも減益
◎売上高:247 億 40 百万円(前年同期比 7.4%減)
・開発事業(9.4%増): 金融業・製造業向けが増加
・運用・構築事業(3.9%増): 金融業向けが増加
・販売事業(28.3%減): 金融業向け大口案件の反動減(AIT)
◎売上総利益:65 億 15 百万円(同 0.8%減)
◎販売管理費:26 億 94 百万円(同 0.9%減)
◎営業利益:38 億 20 百万円(同 0.8%減)
◎経常利益:37 億 70 百万円(同 5.9%減)
◎四半期純利益:24 億 49 百万円(同 3.1%減)

第 2 四半期の売上高につきましては、開発事業、運用・構築事業で増加したものの、販売事業で大幅減少となったため、24,740 百万円(前年同期比 1,979 百万円減)となりました。販売事業における売上減少要因は、AIT において昨年 4 月に 27 億円超の大型販売案件があった反動減によるものです。但し、売上高の前年比減少率は、第 1 四半期の 13.0%減から、第 2 四半期では 7.4%減まで改善しております。

損益面におきましては、売上高の減少に伴い、売上総利益は 6,515 百万円(前年同期比 53 百万円減)、営業利益は 1,725 百万円(同 29 百万円減)となりました。但し、相対的に利益率の高い開発事業や運用・構築事業の売上高が、それぞれ+9.4%、+3.9%増加しており、前年同期比の売上総利益率は 24.6%から 26.3%へ、売上高営業利益率は 14.4%から 15.4%へ向上しております。また、売上総利益の減少率は、第 1 四半期の 2.8%減から、第 2 四半期では 0.8%減に、営業利益の減少率は第 1 四半期の 6.7%減から、第 2 四半期では 0.8%減に改善しております。

経常利益につきましては、前年同期に為替差損 5 百万円を計上していたのに対し、当四半期は円高によって為替差損 221 百万円を計上したこと等により、前年同期比 238 百万円減の 3,770 百万円(同 5.9%減)となりました。

この結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比 79 百万円減の 2,449 百万円(同 3.1%減)となりました。

〔2026 年 10 月　月次売上高〕
（株）SRA＝単月・累計ともに前年比増加
（株）AIT＝単月で前年比減少、累計で前年比大幅減少
国内子会社＝単月・累計とも前年比増加
海外子会社＝単月・累計とも前年比増加

＜発表資料＞https://www.sra-hd.co.jp/ir/ir-news/index_2026.html

（株）SRA では、金利上昇による収益力拡大を背景にした金融業向けの旺盛な開発ビジネス需要を上手く捉えることで、本年 4～10 月の累計売上高は前年度の 32.0 億円から 38.2 億円へ 19.3%増加しております。

（株）AIT は、前述の通り、昨年 4 月の 27 億円超の大型販売案件の反動減のため、前年比減少が継続しております。5 月から 8 月までの各月では前年を上回っておりましたが、9～10 月は好調であった一昨年や昨年に比べて大型案件が減少したことから、前年比でマイナスとなっております。但し、第 4 四半期におきましては、医療関係の複数の大口案件も見えており、これを確実に取り込むことに加え、金融業を中心とした中・小規模案件もしっかり確保していくことで、下期の積上げに尽力してまいります。

国内子会社は、引き続き 4 社すべてで安定的に推移しており、累計で前年比約 9%の増加となっております。

海外子会社につきましては、中国子会社におけるオフショア開発の減少を米国子会社での好調で補うなどして単月で前年比増加を維持、累計では約 11%の増加となっております。

引き続きグループ一丸となって受注・売上の拡大および収益性の向上に注力して参ります。皆様には今後ともご支援を賜りますようお願い申しあげます。